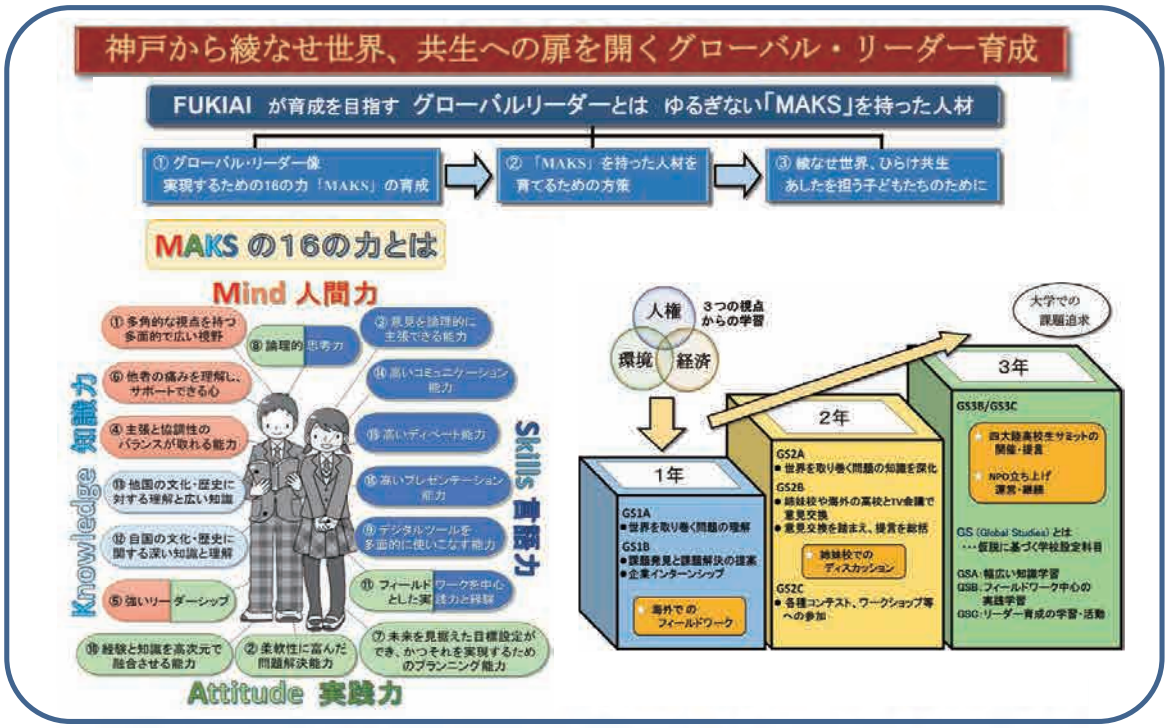
神戸市立葺合高等学校

神戸から綾なせ世界、共生への扉を開く グローバル・リーダー育成

【構想の概要】

国際科の生徒を対象に、「子供」をキーワードとし、「世界の共生」のために人権・環境・経済の視点から学習し、活動を通してグローバル・リーダーの育成を目指す。１年時で世界を取り巻く諸問題を学習し、海外フィールドワークを行う。２年時では「世界の共生のために、私たちが子供にできること」の提言をまとめ、スウェーデン、オーストラリア、アメリカ、台湾等の各姉妹校を訪問し、現地で協議し、共同での活動を計画し、調査研究を開始する。３年時ではこれらの取組に基づき、海外姉妹校生徒を招き、「KOBE 四大陸高校生サミット at Fukiai」を開催して実践報告と討議を行い、共同提言を発信する。５年間の事業終了後も NPO 活動を含め、継続した取組ができる体制を目指す。



○ 国際科　教育課程展開図

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1年	国語総合				現代社会	数学Ⅰ			数学A		生物基礎	体育			保健	芸術Ⅰ			家庭基礎		情報の科学	[illegible]	総合英語				異文化理解		GSⅠA			GSⅠB	HR
2年	現代文B		古典B			世界史B / 日本史B				科学と人間生活		体育		保健	総合英語	GSⅡB			英語理解		英語表現		時事英語		選択1			選択2		選択3		GSⅡA	HR
3年	現代文B		古典B			世界史B / 日本史B				日本史A / 世界史A		体育		総合英語		英語表現			時事英語		ER		選択4		選択5		選択6		選択7		選択8	GSⅢB	HR

※GS：グローバルスタディーズ　※ER：エクステンシブ・リーディング

2年選択科目		
選択1	選択2	選択3
COM A	GSⅡC	中国語Ⅰ
	日本文化紹介	スペイン語Ⅰ
数学Ⅱ	化学基礎	国語表現
		数学B

3年選択科目				
選択4	選択5	選択6	選択7	選択8
古典研究	アジア地域研究 / 中国語Ⅱ	COM B	現代文探求	GSⅢC
数学Ⅰ・A探求	スペイン語Ⅱ / 数学Ⅱ・B探求	生物探求	倫理政経	化学探求

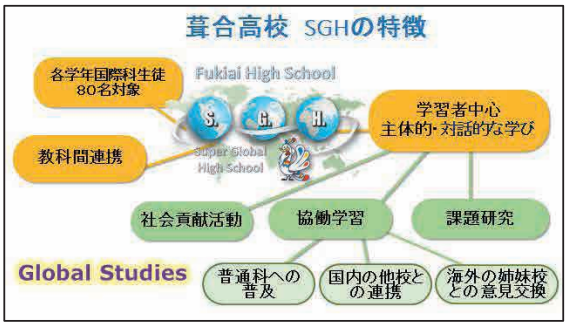
本校 SGH の特徴

1　目指すグローバル・リーダー像

本校が SGH の取り組みを通して育成を目指すグローバル･リーダー像を「ゆるぎない MAKS（マックス）を持った人」とし、MAKS を MIND「人間力」、ATTITUDE「実践力」、KNOWLEDGE「知識力」、SKILL「言語力」と定めた。MAKS をさらに 16 に分類し、グローバル・リーダとして身につけるべき力を示した。

2　課題研究

課題研究に取り組むにあたり、本校では「綾なせ世界、ひらけ共生、あしたを担う子供たちのために」をスローガンに掲げ、キーワードを『子供』とし、子供達が夢を持って平和に暮らせる世界にするために私たちは何をすべきかについて、『人権』『環境』『経済』の 3 つの視点から考察することにした。



教科「グローバルスタディーズ」

SGH の取組の核となる教科として学校設定教科「グローバルスタディーズ」（以下 GS）を設け、人文科学・社会科学分野の先進的な教育課程の開発、並びに実践を行うことを意図し、「課題研究」「国際協働学習「社会貢献活動」の 3 つの柱を立て、総合的な力の育成を目指す。

1　科目構成

GS は国際科生徒が 3 年間を通じて学ぶ教科であり、その特徴から A・B・C の 3 つの分野に分けられている。知識型の GSA、ワークショップ・研究・インターンシップ・フィールドワークからなる実践型の GSB、ディベート・模擬国連参加などで学びを言語化し表現力をつけ、リーダーシップの素地を養うリーダー育成型の GSC から成り立っている。

各学年で GSA、GSB、GSC の各科目が連携することで、生徒たちは効果的に知識や技能を身につけることができる。

1 学年	GS Ⅰ A（3 単位）、GS Ⅰ B（1 単位）
2 学年	GS Ⅱ A（1 単位）、GS Ⅱ B（2 単位） GS Ⅱ A（選択：2 単位）
3 学年	GS Ⅲ B（1 単位）、GS Ⅲ C（選択：2 単位）

2　各科目の特徴

(1) 1 年次

① GS Ⅰ A

教育課程の特例措置として、「現代社会」より一単位を拠出し 3 単位で設定。地歴公民科、国語科、英語科教員が担当し「世界の現状とは」をテーマに各教科の特性を生かした授業を展開している。

地歴公民分野（GS Ⅰ A－S）では世界の様々な地域、国々の現状を多角的な視点で学習する。国語分野（GS Ⅰ A－J）では論文を読む中で課題発見の方法や、研究・調査の方法などについて学ぶ。英語分野（GS Ⅰ A－E）では地歴公民分野と連携しながら英語で学び、アウトプット活動に繋げていく。2 学期後半からは国語分野と連携して 4 人グループで研究テーマを決定しリサーチを進める。

② GS Ⅰ B（総合的な学習の時間）

リレー講義として、産・官・学より講師を招き、講義・ワークショップ等を通して、様々な分野における知識を深め、多角的な視点から物事を分析する力を養う。また学年末に実施するフィリピンフィールドワークに向け Ateneo de Manila 大学より講師を招聘し、事前指導を実施する。

③ コンピュータリテラシー

教育課程の特例措置として、「情報の科学」より一単位を拠出し設定。GS におけるアウトプット活動を支える科目として、コンピュータの操作、インターネットによる情報収集の方法、文書作成法、プレゼンテーションソフトの活用法などについて学習する。

(2) 2 年次

① GS Ⅱ A（総合的な学習の時間）

フィリピンフィールドワーク報告会を含め、講義、専門家に課題研究への助言をもらうワークショップ、ディスカッション等を通して学習を深める。

② GS Ⅱ B（課題研究）

課題研究の中心科目としてリサーチペーパーの作成に取り組む。授業は英語で行う。

リサーチペーパーの書き方に始まり、SDGs 17の目標より絞り込んだ5つの分野から、各自が関心のあるテーマを選び、課題研究に取り組み、論文作成を行う。

国際協働学習として、次年度実施の「四大陸高校生サミット」に向けた参加各国へのSGH提言ツアーや台湾修学旅行時のプレゼンテーション・ディスカッション準備にも取り組む。

③ GS Ⅱ C（国際科選択科目）

地歴公民科教員、英語科教員、ALTによる英・日2カ国語のティーム・ティーチング。

地歴公民科教員主導の講義により知識を深め視野を広げた上で、英語科教員、ALT主導のプレゼンテーション・エッセイライティング・ディベート活動へとつないでいく。

④ 日本文化紹介（国際科選択科目）

国語科・地歴公民科・芸術科（美術）・英語科・情報科教員が担当する。日本文化、日本の美術・建築、神戸紹介等の学習やリサーチを行った後、プレゼンテーションやビデオの作成を行う。

(3) 3年次

① GS Ⅲ B（総合的な学習の時間）

「四大陸高校生サミット」に向けたプレゼンテーションの準備、企画・運営にかかる取組、及び事後の振り返りと冊子の作成作業を行う。さらに、共同宣言の実現に向けて活動する。

② GS Ⅲ C（国際科選択科目）

「四大陸高校生サミット」に向けたプレゼンテーションの準備、企画・運営にかかる取組、及び事後の振り返りと冊子・ビデオの作成作業、及び姉妹校生徒・教員来校時の日本文化紹介等を行う。

カリキュラム上の体験的活動

GSを中心とした教科科目と関連付け、各種体験的な取組をカリキュラム上に配置している。

1　大学・企業・国際機関等との連携授業

外部連携授業を年間計画上に配置し実施。

「グローバル社会と子どもたち」

「人権の視点から国際問題を考える」

「社会と共生する企業」

「課題研究　上達編　スタディーツアーとは」

“Young People in the Philippines”

「国際保健最前線」　他

（平成29年度実績：23回）

2　課題研究コンテスト・発表会

校内発表会に加え、有志生徒による校外の課題研究コンテスト・発表会等に参加。

「関西学院大学　リサーチフェア」

「ひょうご・こうべワールド・ミーツ for youth　×国際問題を考える日」

「ひょうご・こうべ保健・医療ハイスクールサミット」

「防災世界こども会議」

「関西学院大学明石塾」

「全国SGH甲子園」

「京都大学　日本と東南アジアに共通の課題を考える高大連携国際ワークショップ」

「大阪大学国際公共政策コンファレンス」　他

（平成29年度実績：34回）

3　英語・外国語関係　コンテスト・発表会

各種・各団体主催スピーチコンテスト、ディベートコンテスト、エッセイコンテスト等に参加。

（平成29年度実績：26回）

4　海外フィールドワーク・提言ツアー等

フィリピン　フィールドワーク（1年次）

オーストラリア提言ツアー（2年次）

スウェーデン研修ツアー（2年次）

アメリカ提言ツアー（2年次）

台湾修学旅行（2年次）

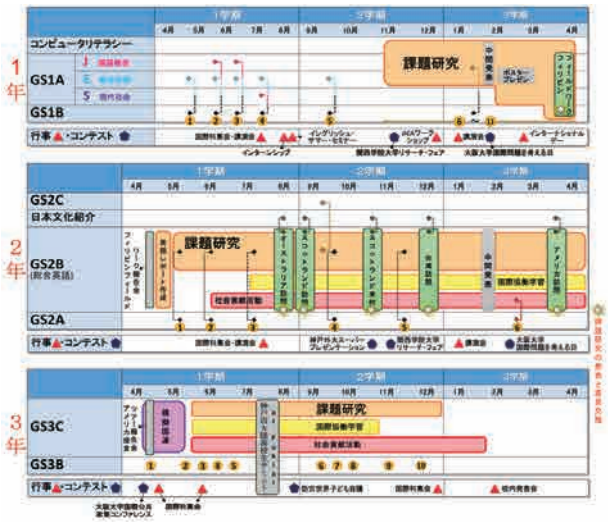
※台湾、スェーデン、オーストラリア、アメリカ生徒・教員来校

5　その他（校内外の行事に有志生徒が参加）

JICAインターンシップ

ユニセフ協会　国際理解講座

日本大学英語模擬国連　他



四大陸高校生サミット

1　取組概要

本校の考えるグローバル人材育成に必要なMAKS（16の力）を育成するための取組の3つの柱は「課題研究」「国際協働学習」「社会貢献活動」である。その中心となりSGHにおける生徒3年間の取組の集大成となるのが、5つの海外姉妹校からの招聘生徒が集う「KOBE 四大陸高校生サミット at Fukiai」であり、指定3年目から最終年度まで3回実施している。

サミットでは生徒が1年生後半より取り組む課題研究についてポスターやパワーポイントを用いて発表し、海外生徒とも意見交換、議論を重ね、互いに協力してローカルな視点とグローバルな視点を取り入れて共同宣言にまとめる。サミット後は、それぞれの国や地域で宣言内容を具体化していくことを目指している。

2　経費

実施にかかる経費については、海外生徒招聘費用はSGH委託費からの支出が認められていないため、管理機関である神戸市教育委員会事務局で政策予算として計上していただき、実施が実現した。

3　プログラム概要（平成30年度予定）

(1) 7月12日（木）

開会行事、各校紹介、歓迎パフォーマンス

基調講演

分野別プレゼンテーション　セッション

分野別会議、分野別代表者会議

(2) 7月13日（金）

代表者会議（Final Presentation作成、共同宣言準備）

ポスタープレゼンテーション　セッション

四大陸高校生サミット　全体会

Final Presentation・共同宣言発表

成果と課題

(1) 成果

①生徒アンケートより（抜粋）

「課題研究が大学の進路決定に影響を与えた生徒」・・・92%

「将来の留学希望、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒」・・・77%⇨86%⇨83%⇨90%　等

②教員アンケートより（記述より抜粋）

・視野の広さ、思考の深さが以前と比べ伸張した

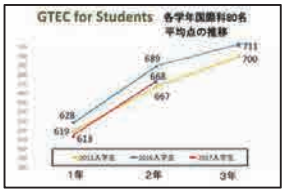
・自ら課題を発見し解決策を見出そうとする主体性に伸張が見られる　等

③各種コンテスト、検定等

平成29年度

第11回	全国高等学校英語スピーチコンテスト	優　勝
第66回	チャーチル杯争奪全日本高等学校英語弁論大会 西日本予選	準優勝
第38回	神戸市長杯英語と日本語によるスピーチコンテスト	金　賞
第25回	日米協会主催高校生英語暗誦大会	準優勝
第 2回	高校生パーラメンタリーディベート世界交流大会	準優勝
第11回	兵庫県高等学校ディベートコンテスト	優　勝

（大会6連覇達成！）



実用英語検定取得状況　2018年3月末

SGH対象国際科生徒 各学年80名

	1級	準1級	2級
1年 国際科	1	12	67
2年 国際科	5	39	72
3年 国際科	5	61	75
合計	11	112	214

(2) 課題

・課題研究の校内（普通科）への普及と作業段階に応じた必要知識・スキルの習得を目的とした教授法や教材の開発と教員間での共有

・課題研究の他の市立高校・中学校等への普及

・SGH事業で培った課題研究の理論やスキルの事業指定終了後の持続可能な形での取組継続